



(提供先：茨城県大子町)

今月の1枚

久慈川のシガ

息も凍りそうな厳冬期、八溝山や男体山など奥久慈の豊かな自然に育まれた久慈川では、氷の小片が無数に川の表面を流れるシガという珍しい自然現象に出会うことができます。全国的に見てもシガが発生する地域は非常に少なく、本州では福島県矢祭町から茨城県大子町にかけて、奥久慈地域を流れる久慈川の上流部約15kmだけといわれています。

この美しい風景は、朝晩の気温が氷点下5℃以下に冷え込む日が5日以上続き、昼間の気温も上がらず、川の水量も少ないなどの諸条件が複雑に重なり合うことで完成します。まさに、自然が作り出す芸術作品といえるでしょう。

シガは流氷の一種ですが、流氷のように水面に張った氷が割れて流れているのではなく、水温が0℃近くになった時に、浅瀬の玉石などに付いた氷の粒(切片氷)がはがれ出し、比較的水量が多い淵の水面に浮き上がることで発生します。

また、別名「フラジルアイス(fragile ice=もろくはかない氷)」とも呼ばれるとおり、氷でできているシガは、気温が上がると溶けて消えてしまいます。そのため、シガを鑑賞できる時間帯は、気温が低い朝方の時間だけです。

朝日に照らされて光り輝く氷の花が、サラサラと美しい音色を奏でて久慈川の流れに乗っていく風景はとても幻想的で、川の水面に光が反射して煌めく様子とはまた別の美しさを見ることができます。

昔、奥久慈に生きた人々は、この美しい風景を見て、シガを「氷花」と書きました。厳しい寒さの中でも、季節を楽しむ風流な心を持っていたようです。

この冬、ご家族・ご友人とともに奥久慈を訪れ、シガが作り出す美しい自然の芸術に触れてみてはいかがでしょうか。

(筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ)



◆場所：茨城県久慈郡大子町、福島県東白川郡矢祭町
アクセス：【車】常磐自動車道那珂ICより約1時間
【最寄駅】JR水郡線袋田駅、常陸大子駅、下野宮駅、矢祭山駅